



トヨタ博物館「クルマづくり日本史」展示室

自動車大国日本。そのクルマづくりはいつ始まり、どのような道をたどって基幹産業にまでなり得たのか。そこにはどのような先人たちの挑戦があり、何が、そして誰がそれを支えたのか。2022年にクルマ館2階に新設された、この常設展示室では5つの観点からこうした問いに答えています。

「ヒストリーロード」では日本人と自動車の出会いから現在までの主な史実を、「物語」では産業基盤確立までの歴史を4章仕立ての短編物語で、「人物」では初めて国産自動車を創った人から産業確立に貢献した創業者までの業績や人物像を、「系譜」では現存主要メーカー12社の誕生から現在に至るまでの変遷を、「数字」では生産台数の推移や現在の姿をデータで、それぞれ紹介しています。

目 次

●令和5年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会のご報告……………	2
●令和5年度 第47回東海三県博物館協会研究交流会のご報告……………	3
●令和5年度 研修会のご報告	
愛知県博物館協会・東海地区博物館連絡協議会合同研修会「碧南市藤井達吉現代美術館の施設見学」…	4
部門別研修会「本当は奥が深い館内アンケート－SWOT分析を用いた作成と活用－」……………	5
●表紙館のご紹介……………	6

令和5年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会のご報告

令和5年度の東海地区博物館連絡協議会及び日本博物館協会東海支部理事会及び総会は、令和5年9月29日（金）に Webex ミーティングによるオンライン開催となった。
当日の概要は以下のとおりである。

参加者内訳（総会）： 静岡県博協3名、愛知県博協7名、山梨県博協1名、岐阜県博協2名、
神奈川県博協4名、日本博物館協会2名、他1名

議題（1）令和5年度理事及び監事の専任について

議題（2）令和4年度事業報告及び決算報告について

議題（3）令和5年度事業計画及び予算案について

議題（4）60周年記念事業について

議題（5）令和6年度開催県について

〈概要〉

議題について、

- （1）令和5年度理事及び監事の選任について、愛知県は引き続き徳川美術館、名古屋市博物館、愛知県陶磁美術館が引き続き理事館に、名古屋市科学館が監事館になる。
- （2）令和4年度事業報告及び決算報告について、前事務局案のとおり承認された。
- （3）令和5年度事業計画及び予算案、
- （4）60周年記念事業について、事務局案のとおり承認された。
- （5）令和6年度開催県について、岐阜県が開催県として承認された。

（愛知県博物館協会事務局）

令和5年度 第47回東海三県博物館協会研究交流会のご報告

第 47 回東海三県博物館協会研究交流会が鳥羽水族館において開催された。

「社会の変化と博物館の未来」をテーマにグループトークセッションを行い、3 県から合計 34 名（愛知県 5 名、岐阜県 5 名、三重県 24 名）が参加した。また、4 年ぶりに情報交換会を実施した。

〈開催日時〉 令和 5 年 11 月 14 日（火）13 時 00 分～

〈会 場〉 鳥羽水族館 4 階レクチャールーム

〈内 容〉

○グループトークセッション・全体意見交換 13：10～15：50

トークテーマ1「財源の確保」

トークテーマ2「人と博物館の未来」

トークテーマ3「これまでとこれからの資料収集」

○鳥羽水族館自由見学 16：00～17：00

○情報交換会 17：30～19：30

〈概 要〉

トークテーマ1「財源の確保」では、これからの博物館はどう稼ぐかといった視点から、「クラウドファンディング」、「オリジナルグッズ販売」、「プレミアム体験」など公立・私立の実状を踏まえながら意見交換を行った。

トークテーマ2「人と博物館の未来」では、学芸員や飼育員等の知識の継承、博物館の人的ネットワークの構築が話題となり、「学芸員実習・講座」や「学芸員の集う機会」が少ないこと、「講師の高齢化」についての課題を共有した。

トークテーマ3「これまでとこれからの資料収集」では、収蔵庫問題と増える収蔵資料への対策、収蔵資料のデジタル化をどう活かすか、近年の資料収集の課題を中心とした。「寄贈資料の増加」とそれに対応する「資料整理の人員」についての工夫や、デジタル化にあっても本物に触れることが重要であることを示す必要があることを再認識した。

グループトークセッションという形式であったことから、学芸員同士の意見交換が活発に行われ、各館の実状が共有されたことにより新たな対応策の発見にも繋がった。また、4年ぶりとなる情報交換会は、トークテーマの課題でもあった希少な機会である学芸員の集う会となり、充実した「研究交流会」の開催となった。



グループワークの様子



発表の様子

（田畑 潤、愛知県陶磁美術館 学芸員）

令和 5 年度 愛知県博物館協会・東海地区博物館連絡協議会 合同研修会のご報告

「碧南市藤井達吉現代美術館の施設見学」

開催日：令和 5 年 11 月 7 日(火) 会場：碧南市藤井達吉現代美術館

東海地区博物館連絡協議会との合同開催となった本研修会は、参加者数 19 名、最も遠方は神奈川からの参加であった。会場の碧南市藤井達吉現代美術館は、2008 年の開館以来、まちの文化拠点として精力的な活動を行ってきた美術館である。このたび収蔵庫増床を含む増改築が完了し、2023 年 5 月にリニューアルオープンしたことから、同館の全面的なご協力のもと、展示室及びバックヤードの施設見学を開催した。

最初に木本館長から 2008 年の開館、2020 年からの増改築、2023 年のリニューアルオープンまでのそれぞれの経緯などをお話いただいた。市民に寄り添い、文化意識を高めるという理念のもと、展覧会やワークショップなど、筋の通った活動を地道に行うことで、入場者数の増加、市民の支持者の増加につながり、市の理解と増改築を含む予算獲得の原動力となっているという。繰り返し出てきた「市民を味方につける」という言葉は、参加者の記憶に最も残ったキーワードだろう。今回の増改築は、開館時からの問題点を解消する「収蔵庫と多目的室の増床」「搬出入口の大型化」「藤井達吉記念室及び保存修復室の新設・改修」を主な柱として実施されたが、コロナ禍と重なったことから予算及び施工計画が変更となった。それに伴い休館期間も 3 年と延長を余儀なくされて、その間の業務調整は困難を極めたことと察する。

研修会後半は、岩月学芸員の案内のもと、出席者全員で展示室とバックヤードを巡った。増築部分に設けられた多目的室は、これまで同館になかった、間接的に外光が取り入れられる構造で、館名にある「現代」の美術作品にそぐう展示空間となっている。同じく館名に掲げられている「藤井達吉」の作品展示に適した記念室も新たに設けられ、展示方針がより明確になった印象を受けた。1 階の搬入口は 4 t トラックが駐車可能となり、荷解き室との間を閉めて空気交換ができる、海が近い同館にとって念願の機能も装備。同じゾーンに新設された保存修復室は、同館の資料保存に対する意識の高さを象徴するものであった。

岩月学芸員には、解説はもちろん、休館期間中の作品資料の保管方法や近隣住民への対応など、参加者の多様な質問にも明快にご回答いただいた。同館はもともと旧碧南商工会議所を用途転用しリノベーションしていることから増改築にも様々な制約があったという。予算も限られるなか、施工業者とは近い距離感で打ち合わせや交渉を頻繁に行うことで、互いの疑問点を解消し妥協点も共有しながら、同じ目標に向かい完成に至ったことが、岩月学芸員の言葉の端々からうかがえた。その積極的に関わる姿勢は、今後改修・改築を迎える博物館・美術館施設にとって大いに参考になるだろう。



(成瀬 美幸、豊田市美術館 学芸員)

部門別研修会「本当は奥が深い館内アンケート—SWOT分析を用いた作成と活用—」のご報告

令和6年2月9日（金）に徳川美術館講堂にて部門別研修会「本当は奥が深い館内アンケート—SWOT分析を用いた作成と活用—」が開催された。本研修は、対面で実施し、参加者は40名であった。

本研修会には大和大学社会学部社会学科准教授で自身でも芸術家として金属製のオブジェやジュエリー、ステインドグラスの制作などを行いつつ、まちづくり活動やアートプロモーション活動などを通じて博物館・美術館の評価にも詳しい立花晃（Akira Janssens）氏を講師にお招きした。

研修会の前半は、立花氏より統計学とは何かという基本的なことや、量的調査・質的調査の違いについてという社会統計の基礎、後半で行う実践の前提としてSWOT分析の考え方について解説があった。統計で用いるデータは、直接数値で観測できる量的データ（段階評価、良い・悪いなど）と数値で観測できない質的データ（自由記述・映像・写真など）があり、双方を行き来して分析・利用することが必要であると説かれた。またSWOT分析の“SWOT”とは、“Strengths（強み）”、“Weaknesses（弱み）”、“Opportunities（機会）”、“Threats（脅威）”のことを指し、経済学・経営学の視点からの課題分析や市場調査の手法として用いられているものと紹介された。このS・W・O・Tの4つを様々な組み合わせ、掛け合わせていくことで、博物館の魅力・特性を自ら分析・理解・自覚することができ、アンケートの項目設定や分析に有効だという。そこで後半はワークショップ形式で既存のアンケートを用いてその改善案の作成に取り組んでもらった。

今回は会場の徳川美術館の来館者アンケートを題材としてその改善案を探るため、館内を見学した後、グループごとにSWOT分析を用いて館の強みや弱みなどの洗い出しを行ってもらった。そしてその分析を基に来館者に「何を聞きたいか」「どのような情報を得たいのか」というようなアンケートの目的と、それに沿った新しいアンケートの設問を考えてもらった。その結果をグループごとに発表してもらったところ、徳川美術館の豊富なコレクションをもつという大きな強みや改善の難しい施設面での課題などがあぶり出され、復調傾向にあるインバウンドを意識したような新たな設問も提案されていて、会場にも参加者にとっても有益なワークショップとなったように思う。

SWOTの考え方は各館に持ち帰ってアンケートの質の向上に活かしていくことのできるもので、ワークショップはそれを学ぶための良い機会となった。また、立花氏は本研修会のように博物館の職員＝専門家が一同に会して一つの館について意見を交換し、議論できる場の存在とそこで形成されるネットワークは貴重であると言い、このような取り組みが継続して行われることを期待されていた。



ワークショップの様子



発表の様子

（山下 智也、刈谷市歴史博物館 学芸員）

表紙館のご紹介

■ トヨタ博物館

【開館時間】

9:30～17:00（入館受付は 16:30 まで）

【休館日】

月曜日（祝日の場合は翌日）及び年末年始

【入館料】

大人 1,200 円 シルバー(65 才以上) 700 円
中高生 600 円 小学生 400 円

【所在地】

〒480-1118 愛知県長久手市横道 41-100

代表：0561-63-5151

<https://toyota-automobile-museum.jp/>

【交通手段】

- ・お車をご利用の場合
名古屋瀬戸道路「長久手 IC」より西へ 0.4km（東名高速道路日進 JCT 経由）
- ・公共交通機関をご利用の場合
リニモ（東部丘陵線）「芸大通駅（トヨタ博物館前）」で下車〔1 番出口〕、徒歩約 5 分

【駐車場】

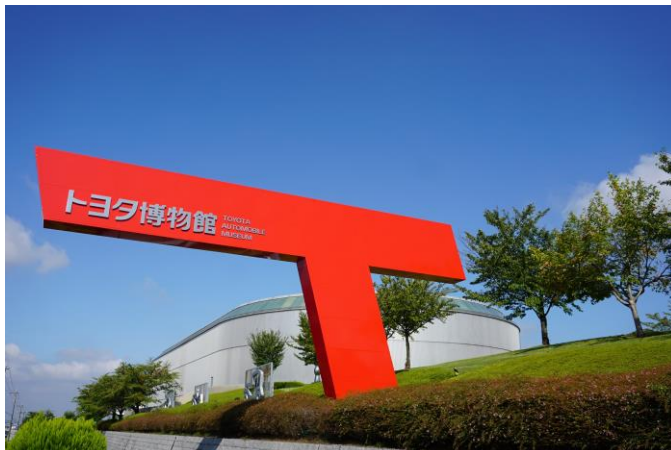
乗用車 320 台 バス 7 台 おもいやり駐車場 8 台 G-Station（PHV／EV 用充電スタンド）5 台



クルマ館



文化館 2 階 クルマ文化資料室



外 観

「愛知の博物館」 No.118

発行日 令和 6 年 3 月 31 日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489-0965

愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

愛知県陶磁美術館内

TEL. 0561-84-7474